

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>当事業所の運営理念に添って日々介護させていただいている。</p>		<p>申し送り時に職員同士理念を確認し合い取組んでいきたい。</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>管理者、職員一同理念に基づき、入居者の要望に答えられるよう取り組んでいる。</p>		<p>入居者の希望や要望に沿った介護ができるよう日々取り組んでいる。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>施設内に理念を掲示し、ご家族のかたなどでも目を通せるようにしている。運営推進会議などを行いご家族の意見なども取り入れるよう、取り組んでいる。</p>	○	<p>会議などに参加されるご家族が固定化していることや、参加人数が少ないこともあるので、もっと沢山のご家族や地域住民が集まり、関心を持っていただけるよう呼びかけたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩時や雪かきなどの際、近所の方にお会いするときは必ず挨拶をし気持ちよいお付き合いが出来るように職員一同取り組んでいる。最近では職員や入居者様も近隣の方々と世間話などするようになってきている。又、遊びに立ち寄りくださったり、野菜などいただいたり交流も増えている。</p>	○	<p>夏は外に出る機会が多くなるので、外で一緒に会話やお茶をしたり、花を植えるなどもっと交流を深めたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会には参加させていただいているが、引っ越してきたばかりで行事などには参加できていない。</p>	○	<p>実施されている内容などを把握し、参加していけるように取り組んでいきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>まだ把握できていない。</p>	○	<p>今後は交流を深め把握し、取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	自己評価及び外部評価を実施することで、今まで取り組んできたことを再確認でき、改善点などの見直しなどに取り組んでいる。	○ 今後も自己評価、外部評価をすることで改善点などを見直し取り組んで行きたい。
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	職員に話し合った内容がいきわたっていない。	○ ミーティング時に運営推進会議の内容を報告する。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	連絡・報告・相談をしておりサービスの向上に取り組んでいる。	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	まだ実施できていない。	○ 地域包括支援センターの方に学ぶ機会を設けていただいて、職員でも把握できるように取り組みたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	ミーティング時などに入居者様の状態を把握した上で話し合いを行い、防止に努めている。	○ 今後も職員同士の意見を話し合いすることで、入居者様の対応のあり方を検討し虐待防止の努めて行く。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	入居者やご家族などには不足しないよう説明を行っている。	○ 契約は施設長が行っている為職員は把握できていない部分がある。今後は職員にも説明をおこない説明する側も職員に説明することで、内容を今以上に理解していただけるように勤めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様からの訴えなどがあった場合は耳を傾け話を聞き対応している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族の方などの面会時に職員から報告している。又、面会の少ない方については電話連絡やお手紙などで報告している。		状態を伝え、ご家族も入居者様に合った対応をしていただけている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱を玄関に設置し、いつでも記入していただけるようにしている。		玄関にご意見箱を設置している。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に行っているミーティングにて職員の意見などを聞き、運営に反映されるよう努めている。		ミーティングにて出た意見をすぐ実施するよう取り組んでいる。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	毎月のシフトにより調整できている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職場内での異動は極力抑えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>管理者や職員は、同事業所への研修へ参加するなどの機会をつくり参加している。</p>	○	<p>職場外研修への参加が少ないため取組んで行きたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>ケアマネ連絡協議会へ参加し、他事業所のサービス状況の内容を聞き賛同できるものは取り入れている。</p>	○	<p>グループホーム同士の交流がないので、今後は深めて行きたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>建物上ゆっくり休憩する場所はないが、管理者、職員間のコミュニケーションを多くとる環境を作り取り組んでいる。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>取り組んでいる。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面談時にはゆっくりと話を聞いているがその後はご家族との連絡が多くなってしまふ。</p>	○	<p>利用に至るまでの間にもっと話を聴く機会を増やすよう取り組む。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>連絡はこまめに取り、不安がないように対応させていただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容をよく把握し、対応している。	○	契約などする施設長がほぼ行っている為、職員が初期対応の学習を行う機会を設ける。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	徐々に入居者様のことを理解し、ご家族との連携を図りながら馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様と一緒に生活していく上で、掃除や料理作りなど一緒に行い昔ながらの方法など職員が教わる機会を作っている。		一緒に行くことにより、日常生活の楽しみを持っていただけるよう支援させていただいている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会などにご本人の状況を伝えることでご家族も理解でき職員もご家族と共にご本人を支えていく関係を作っている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人、ご家族両方のお話を聴き今後もよい関係が保てるよう支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地元から離れて入居された方もいらっしゃいますが、極力途切れないよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々入居者様同士のコミュニケーションが図れるよう、職員が間に入り対応している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	その方、そのご家族に合わせた対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の訴えや会話に十分に耳を傾け話を聴くよう心がけている。		困難な場合でもなるべく近い対応をさせていただくよう心がけている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様一人ひとりの生活歴を把握し、会話に取り入れ対応している。		入居者様との会話やご家族からの情報を取り入れ、生活歴や経験などをより詳しく把握できるよう努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の介護記録や申し送り、連絡ノートにより全職員が情報を共有できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ミーティング(ケア会議)などの時に、プラン担当者・他職員が入居者様一人ひとりの状態について意見し話し合いを行い、ご本人に合ったプランを作成できるよう努めている。	○	弱い部分があるので、今後もっと入居者様に合ったプランを職員全員が作成できるように日々取組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	月に一度又は状態に変化があった場合にケア会議を開き、ケアプランの見直しを行っている。		その都度、現状にあった新プランを作成している。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	その日の行動、状態などは日々の記録に残し、ケアプランに添ったケアを心がけている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人やご家族の要望でホームが出来ることは対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要なときは連絡を取り、支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要と判断した場合は、ご家族と連絡を取りながら支援させていただいている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターが設立してからはまだ事例はないが、町管轄の際に町の担当者と協議をし行った。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的に往診に来てくれるかかりつけ医を確保している。当事業所の看護師も確保し、週2回来て支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症について指示や助言をしてくれる病院へ通院した際に相談をしている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	当事業所の看護師を確保し、相談をしながら日々支援している。		入居者様の状態の変化をその都度相談し、日常の健康管理や医療活用に取り組んでいる。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にはいつ頃退院できるかなど利用者様が元々生活に戻れるように医師や看護師などと密に連絡を取るよう努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居者様の状態が変化する都度ご家族やかかりつけ医と連絡を取り合い、全員で方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所でできること(介護)はさせて頂いているが、できないこと(看護)についてはかかりつけ医と連絡する事により支援させて頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	ご家族から入居者様に話をして頂き、かつ職員からも説明し住替えによる不安を取り除けるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	トイレの声掛けなどはプライバシーに配慮し、さりげなく行っている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	行事の内容や参加希望、食事の献立など要望を聞き、入居者様に選んでいただけるような機会を作っている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の状態を把握し、その一人ひとりのペースに合わせたケアを心がけている。	○	今以上に入居者様一人ひとりのペースに合わせた日々を過ごせるよう取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご本人の希望に合わせた衣類選びや理容、美容はご本人の望む店に行けるよう支援させていただいている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様と職員と一緒に食事を取りながら声掛けを行い楽しんで頂けるように支援させていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒などの嗜好品は医師と相談し、時間を決めて支援させていただいている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者様の排泄パターンを把握して自立して行えるよう声掛けや誘導をし支援させていただいている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者様の要望に添えられるよう、訴えがあった場合には可能な限り対応できるようにしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中はレクリエーションや体操の参加を促し、身体を動かして夜間安眠できるよう又、疲れた時は自室で休んでいただけるよう声掛けをさせていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常生活上お手伝いしていただける事は声掛けし、積極的にさせていただいている。又、一人ひとりに合ったホーム内での役割などを支援させていただいている。		入居者様の状態を見ながら参加できる活動やお手伝いの声掛けをし、支援させていただいている。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様の要望に合わせ、ご本人に行っていただいている。金銭管理が出来ない方については管理者が金庫にて管理を行っている。		少しでも出来る場合は買い物へ行った際、ご本人にお金を渡して支払いをしていただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬期間は積雪により足元が不安定な為外出は控えるようにしているが、雪がなくなった際にはホーム前の広場にて体操を行ったりしている。又、通院などの外出の帰りなどは買い物などにお誘いしている。	○	今以上に車を利用し、ドライブなどへ行く機会を増やしたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年に1度、温泉旅行を実施している。		呼びかけを行い、参加できるご家族様には一緒に参加していただき交流の機会を支援している。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	訴えがあった場合は対応している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族等が訪問しやすい雰囲気作りを心がけている。又、訪問時には笑顔で挨拶するよう心がけ入居者様と一緒に気軽に会話できるようコミュニケーションを図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は起きないように一人ひとりの職員が理解し取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関に鍵をかけることはせず、戸のところへブザーを付け出入りがわかるように工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に入居者様の所在や様子が確認できる範囲で職員は行動するように努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁、洗剤類は入居者様の目の届かないところに保管している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	常時、職員は入居者様へ目の届く範囲内で行動するようにし、入居者様に合わせた対応(見守り)が出来るよう取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的に消防署にて開催している救命救急講習へ参加し、全職員が急変時に対応できるように備えている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に消防署の方に来ていただき指導のもと、避難訓練等行っている。		消火器の使用方法や消化のやり方講習を受け、入居者様も一緒に学んでいる。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	定期的に状況をお話し、今後についてもご相談させていただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日常の状態を各職員に申し送りで伝え、各自同じ情報を共有し対応できるように取り組んでいる。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の指示通りの服用を促し、薬の目的や作用など職員が把握できるように薬表を個人ファイルにはさめいつでも確認できるようにしている。	○	職員全員が副作用など理解している訳ではないので今後は職員全員が理解できているように取り組みたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日リハビリ体操をおこない又、便秘症の方については水分を多く摂っていただくなどし、便秘予防に取り組んでいる。		リハビリ体操の他にもホーム内の歩行運動など、身体を動かす機会を作るよう取り組んでいる。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	入居者様の状態に合わせて声掛けや見守り、介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士が献立を作成している為、食事のカロリーや栄養バランスは確保できている。又、食事量や水分量を記録に残している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	全職員が感染予防の講習を受講し、実行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日消毒をし、安全な管理に努めている。		毎日まな板や布巾などの漂白を行い、又テーブルや手すりなどは塩素消毒をしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には段差をなくし、バリアフリーにしている。	○	建物が新しい為まだ草花等は植えていませんが、今後は入居者様と一緒に雰囲気作りに取り組みたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホームでの旅行時の写真や、入居者様が書かれた習字など飾り生活感のある空間であるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事をする場所や、ソファでくつろいでいただける場所など自由に過ごしていただけるよう工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅で使用されておられた家具などを持ち込んでいただき又、写真や小物など置いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ホーム内は24時間換気に設備を導入している。又その外も暖房などの調節も状況に応じて行っている。		冬期間は暖房を使用するため室内が乾燥するため、リビングには加湿器を設置し調整している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活が営めるよう、リビングや廊下、トイレ、階段などに手すりをつけ安心して生活が送れるよう工夫している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗を防ぐよう、汚れなどは放置せずに速やかに清掃するよう努めている。又、個人のお部屋には表札を付けるなど工夫している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	洗濯物を一緒に干したり、ホームの前にベンチを置き休める場所、花壇など活動できるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	②
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	③

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

月に2～3回の「外レクリエーション」といった外食や買い物、ドライブのほか年に1度の1泊温泉旅行など外での楽しみを持っていただいたり又「内レクリエーション」といったお誕生日会などの行事を行い、日々日常生活以外の楽しみを持っていただけるよう支援させていただいています。